

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度第5回坂戸市環境審議会
開催日時	令和6年1月24日（水） 10時00分～11時30分
開催場所	坂戸市役所 301・302会議室
会長の氏名	井元 りえ
出席者（委員）の氏名・出席者数	井元 りえ、板井 孝子、太田 諤、中里 和子、房野 洋、町田 和男、上岡 憂子、萩原 章、小ノ澤 忠義 【9名】
欠席者（委員）の氏名・出席者数	真野 博、細田 千恵、宍戸 智行
傍聴者数	0名
事務局職員の職・氏名	環境産業部長 石坂 知巳 環境産業部次長 新井 仁 環境政策課長 間々田 征典 廃棄物対策課長 上 政雄 環境政策課長補佐 尾澤 裕昭 環境政策課専門委員 廣澤 隆夫 環境政策課企画調整係長 辻 里佳 環境政策課保全係長 林 朋宗 環境政策課企画調整係主任 齋藤 直樹 ナレッジリーン 中谷 祐貴子
会議次第	1 開 会 齋藤主任 2 挨拶 3 議 事 （1）第3次坂戸市環境基本計画の答申案について （2）坂戸市環境報告書令和5年度版（案）について 4 その他 5 閉会
配布資料	〈事前配布〉 ・令和5年度第5回坂戸市環境審議会次第 ・資料 第3次坂戸市環境基本計画の策定について（答申）案 ・資料 坂戸市環境報告書（案）

議 事 の 経 過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	本日の審議会は公開となっている。本日の傍聴希望者はなし。
会長	（挨拶）
会長	（議事） 「（1）第3次坂戸市環境基本計画の策定について（答申案）」を議題とする。事務局から説明をお願いします。
事務局	（答申案について、事務局より説明。）
会長	ただいまの答申案について、意見・質問等あるか。
委員	審議会として、内容としてはよくできている。 一方で、最近では「地球沸騰化」という言葉を使っている。1.5℃以内にしなければいけないのに、既に1.1℃まで上昇してしまっている。世界的には干ばつなど多くの被害が起こっている。 そういった喫緊の課題である状況を踏まえ、「されたい。期待したい。」という言葉ではなく、市民の方にもわかりやすいように、具体例や、周りの現状を反映したものにした方がよいのではないかと。表現の仕方を少し工夫してはどうか。

	期限などをいれて緊急性を感じられたり、市民が自分事として考えられるような表現があるといいと感じた。
委員	この審議会意見（答申）は、市民に出すものでなく、市長に向けて出す意見という認識であれば、表現的にはこれで問題ないと感じる。入れるとすれば、計画案の段階で、市民の方に危機感を持ってもらえるような表現にしてもらえるといい。
委員	審議会意見（答申）としては「行っていく。支援していく。」という表現になっていて、問題ないと思う。
委員	このままでよい。
会長	計画素案については、これまでの審議会において、細かいところまで審議いただき、反映されているという認識でいる。ご指摘も、ごもっともだが、審議会意見としては、このままでよいか。
委員	「施策を推進されることを願います。」という表現もあるので、問題ないと感じている。
委員	「強い言葉」は大事なことだと思う。答申先が市長とすれば、ゼロカーボン宣言をしている相手に対しての意見なので、文末を「すべきである」という強めの表現を使っていいところもあると思う。
委員	このままでいいのではないか。
委員	ニュース等で「地球沸騰化」という言葉は聞いたことがあるが、あれは国際間の政治的な交渉の中で、我慢ならず、より喫緊性を強調するために選んだ言葉だと理解している。坂戸市にも同じようなことが言えると思っていて、物事の言い回しは大事に思う。それぞれの立場から適切で、より強く訴求できる言葉があれば、使うべきだと思う。
会長	ご意見を踏まえ、1について、「構築すべきである」と文末を変更するか。
委員	文面が優しい言葉だと、流されてしまう可能性を感じる。
会長	1を「構築すべきである」と変更した場合に、他の項目で変更すべきところはあるか。
委員	それに関して言うと、4の「地球規模での気候変動に対し～」のところは、文末が「抑制に努めるべき」とすればより関連性が出てくるのではないか。 「ゼロカーボンシティ」と「食品ロス」については、既に市として実施し始めている部分については、もう少し強い表現がよいのではないか。
会長	1は「継続的な支援体制を構築すべきである」、4は「ヒートアイランド現象を抑制すべきである」とするか。
事務局	この答申については、市長から諮問に応じたものなので、共通的な表現を用いた案となっている部分がある。また、計画において5つの分野すべてが、同じように取り組んでいかなければいけない側面があるので、分野ごとに強弱（優劣）が出てきてしまうと、分野間でどのような違いがあるのかといった話になるので、そういった事も踏まえて、議論いただきたい。
委員	ということは、基本的に市長は全部必要とっていて、そのうえで、もっと良くするにはどうしたらよいかを投げかけられているのか。
事務局	これまで皆様に審議いただきながら最終案はできていて、これに基づき市として取り組むことになる。改めて、もう一度、総論として整理したもので、議論の上で、変更される分には構わない。
会長	これまでの審議内容のすべてを、1枚に整理して端的に市長に伝えるというのは、難しい。
委員	事務局からあったように、分野でランク付けはするべきものではない。意見を求められたことに対して、市長への言葉として「すべきである」という言葉を使うことは、間違いではないと思う。 審議会としての意思を表明すべきなので、使ってもよいのではないか。
委員	市長にこの計画を通すためなので、低姿勢な表現でよいのではないか。

会長	文章での表現には限界がある。現行案でいかせていただく。 審議会からの意見として、30日に市長へ答申をお渡しする際は、しっかり想いを伝えたい。
事務局	次に、「(2) 坂戸市環境報告書令和5年度版(案)について」を議題とする。事務局から説明をお願いします。
	(環境報告書について、事務局より説明。)
委員	3ページ目に「※計画期間を1年延長しました」とある。理由はコロナの影響だったかと思うが、理由を簡単に記載したほうがよいのではないか。
事務局	ご指摘のとおり、これでは理由がわからないため、注釈等を加える。
委員	10・11ページについて、気候はR元年という表現になっているが、人口は平成31年となっている。確認だが、気候と人口は区切る年度が異なるということか。
事務局	気温は1月から12月の1年間を令和元年、人口は1月1日現在なので、平成31年となっている。
委員	24ページの大腸菌数について、大腸菌群数を調査していたときは、長年基準値を到達できない結果で原因がわからなかった印象がある。それが、調査方法が変わったことで、すべて〇になったことを、簡単に説明してほしい。
事務局	これまでは、大腸菌を容易に培養することが技術的にできなかったため、「大腸菌群数」という大枠で数値を出していた。それが、技術的進歩により大腸菌のみを検査できるようになった。「大腸菌群数」については、自然由来のものが含まれており、し尿の基準として適切でなかったため、大腸菌のみの測定と変わった。
委員	25ページの(2)-4②については、「大腸菌群数」になっているが、どういうことか。今の説明だと、大腸菌ではないのか。
事務局	こちらは先ほどの「大腸菌群数」とは異なり、調査地点が水浴場の水質判定基準を満たしているか確認するため、糞便性大腸菌群数を測定したものである。
委員	21ページの目標の達成状況の「保存樹木の指定面積」について、かなりひらきがある。市全体でどれくらいの樹木林があるのか。 また、34ページの気温について、坂戸市の最高気温が40℃を超えていないようだが、肌感覚として、超えているように思う。
事務局	統計坂戸に掲載の測定地点においては、40℃を超えたことがない。
委員	実態は、超えているところはあるのではないか。測定器がないだけで。
事務局	測定器がない場所については、把握していないのでわからない。 先ほどの、坂戸市内の樹木量については、概ね124ha、城山がおよそ30haなので、その4倍くらいあると思っていただければ。
委員	樹木が二酸化炭素を吸収する力が、計算しなおしたら1.5倍だったという情報を聞いたので、坂戸市内の樹木量が吸収源として、ゼロカーボンを目指すうえで、重要になるのではないかと思い、確認した。
会長	28ページの市民花壇数の減少について、対策などあるか。
事務局	市民ボランティアの方に花壇管理をお願いしているところだが、会員の方の高齢化により、減っている現状。そんな中でも、次の世代の方に引き継いでもらえるよう市として普及啓発しているところだが、難しい状況が続いている。今後でもできる限り対策を取っていきたいと考えているので、参考となるご意見などがあれば、いただきたい。
会長	意見がないようなので、本日のすべての議事は終了する。
事務局	(事務連絡) 計画の答申について、1月30日に井元会長と真野職務代理から市長へ答申していただく予定である。最終的な計画書については、印刷・製本後、市役所、出張所等での閲覧並びにHPで公開するとともに、委員の皆さまにも、配布する。
会長	(閉会の挨拶)

事務局	閉会
-----	----

以 上